

岩城光英の永田町だより vol.229

明けましておめでとうございます。輝かしい新春をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

旧年を振り返りますと、政権交代後、歴史認識・安全保障の危機管理欠如など、軸足の定まらない民主党連立内閣が引き起こした混乱に振り回された一年でした。普天間基地移設問題、子ども手当や高速道路料金・高校授業料無償化の財源問題、尖閣諸島や国後島に関わる領土・主権の問題、相次ぐ閣僚の失言、政治とカネの問題など、枚挙にいとまがありません。国民生活を揺るがすこれらの問題は、結局、何も解決されないまま年を越してしまいました。今月に開会される通常国会で明らかにしていかなければならない問題です

一方、様々な改革への道筋を推し進めてきた自民党は昨夏の参院選の結果により、参議院では、自民・公明などの野党で過半数を押さえ、無軌道な国政運営にタガをはめることができました。その後、全国各地での自民党支持の首長・地方議会選挙の雪崩現象的な勝利は、現内閣の政策に対する厳しい国民の判断が結果に表れたものと思われまます。有権者と車座になって行う「全国ふるさと対話集会」や街頭活動など、地域の課題をすくい上げる努力、財

政や金融問題での腰を据えた政策提言、国際間の信頼回復など、我が党が担うべき課題は山積しております。皆様方とともに、来るべき日に備えてまいらなければなりません。本年もご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「大波乱の2011年」

北野湘南

明けましておめでとうございます。新年早々から縁起の良くない話しをしたくないが、今年は未曾有の大波乱の年となるだろう。大波乱の要因は、混迷を深める一方の国内政治と、激動する国際情勢に民主党政権が依然として明確な理念を示せないことだ。

年明け早々に小沢民主党元代表と菅首相は、新年会を開いたが、小沢元代表の私邸に集まった国会議員は120人。これに対して菅首相は僅か45人（産経新聞）。小沢元代表のもとに集まった議員は昨年に比べると40人以上も減ったが、それでも菅首相の3倍弱。民主党の国会議員の半分近くは、小沢元代表系とされるが、その通りであることはこの数で一目瞭然だ。しかも、小沢元代表は、挨拶の中で菅首相を牽制する発言が少なくなかったとされる。年明けの正月早々から小沢系議員が半分近くを

占めるとされる民主党の内情だけでなく、依然として党内に強い影響力を保持していることを見せ付けたと言えよう。

昨年末、小沢元代表は衆院政治倫理審査会への出席を承諾したが、多くの条件をつけており、玉虫色の要素が多分に含まれている。永田町では「小沢元代表が本当に出席するか分からない」との観測が、圧倒的。これに対して菅首相や岡田幹事長らは出席しなかった場合には小沢元代表に離党を迫る覚悟とされる。民主党内は、最近の地方選挙で連敗どころか大敗続き。市議会レベルではあるが、菅首相のお膝元である西東京市でも大敗した。だが「小沢元代表のような実力者をないがしろにした結果」とする小沢元代表系と「いつまでも政治とカネの問題を抱えた小沢元代表が足を引っ張っている」と見る菅首相らとの溝は深まる一方。こうしたことから小沢元代表グループが、民主党を離党して新党を結成するとの見方は消えていない。

だが、二度の検察審査会の決議により小沢元代表は今月中にも起訴されるのは確実。これをきっかけに求心力が低下する可能性が高いことや、どのマスコミの世論調査でも小沢元代表はカネの問題について国会などの公式な場で説明すべきとの答えが80%を越えている。民主党は、支持率が急落し、2年前には考えられない逆風に見舞われている。中

でも小沢元代表系議員は選挙区で「次回の選挙では絶対に入れない」と支持者から公然と批判されることが少なくないとされる。「離党しても本当に付いていくのは30人程度」とされるのはこうした理由からで、小沢代表らによる新党結成の可能性は低いことになる。

だが、小沢元代表グループは、菅首相ら現執行部の批判を一段と強めるのは確実で、民主党の混乱は一段と深まり菅内閣の支持率は一段と低下するだろう。さらに、路線対立から一度連立を解消している、沖縄の基地を認めることに反対するだけでなく日米安保にさえ否定の立場を取る社民党に国会対策での協力を要請した。この夏には菅首相は、オバマ米大統領と会談し日米関係の再構築を進めるとしているが、これでは日米間の最大の問題である普天間基地の移転が夏までに決まる可能性はゼロに近い。「たちあがれ日本」にまで連立話しを持ち込み断られた。

指導力の欠落と支持率の低迷から「仙菅（せんかん）やまとが沈むのも時間の問題」などと揶揄する声は永田町に広がっている。敗北が確実なことから「解散総選挙」の可能性は低いが、今年中の解散総選挙の噂も飛び始めていることも事実。不況に苦しむ国民生活をないがしろにして政局は混迷を深めるばかりだ。